

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7626433号
(P7626433)

(45)発行日 令和7年2月4日(2025.2.4)

(24)登録日 令和7年1月27日(2025.1.27)

(51)国際特許分類

F I

A 4 7 B 77/00 (2006.01)

A 4 7 B 77/00

A 4 7 B 96/20 (2006.01)

A 4 7 B 96/20

請求項の数 5 (全11頁)

(21)出願番号	特願2021-6811(P2021-6811)	(73)特許権者	000104973
(22)出願日	令和3年1月20日(2021.1.20)		クリナップ株式会社
(65)公開番号	特開2022-111411(P2022-111411 A)		東京都荒川区西日暮里6丁目2番22号
(43)公開日	令和4年8月1日(2022.8.1)	(74)代理人	100094525
審査請求日	令和5年9月27日(2023.9.27)		弁理士 土井 健二
		(74)代理人	100094514
			弁理士 林 恒徳
		(72)発明者	間辺 慎一郎
			東京都荒川区西日暮里6丁目2番22号 クリナップ株式会社内
		審査官	神尾 寧

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 パネルユニット

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

キッチン空間と連続する部屋空間の当該キッチン空間との境界位置に設置されるキッチンキャビネットの前記部屋空間に面して立直する第1の側面に対向して立設されるパネルユニットであって、

前記キッチンキャビネットの前記第1の側面に面して配置されるパネルと、

前記パネルを前記キッチンキャビネットの前記第1の側面に沿って上下方向に昇降可能に支持する駆動機構部とを備え、

前記パネルの上端部分に、前記パネルの長手方向に沿って水平方向に延びるカウンタが設けられることを特徴とするパネルユニット。

【請求項2】

前記パネルに、前記カウンタの下側であって前記パネルの前記部屋空間側の面に取り付けられた棚板を有する収納部が形成されることを特徴とする請求項1に記載のパネルユニット。

【請求項3】

前記パネルに、前記カウンタの下側であって前記パネルの前記キッチンキャビネット側の面に取り付けられた棚板を有する収納部が形成されることを特徴とする請求項1に記載のパネルユニット。

【請求項4】

前記パネルに、前記カウンタの下側であって前記パネルの前記キッチンキャビネット側の

面に取り付けられた棚板を有するキッチンキャビネット側収納部と、前記カウンタの下側であって前記部屋空間側の面に取り付けられた棚板を有する部屋空間側収納部が形成されることを特徴とする請求項 1 に記載のパネルユニット。

【請求項 5】

前記駆動機構部は、前記キッチンキャビネットに隣接する床面に取り付けられることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載のパネルユニット。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、オープンキッチンを構成するキッチンキャビネットに用いられるパネルユニットに関し、特に、キッチンとそれに連続するダイニングルームやリビングルームとの間に設置されるキッチンキャビネットに面して配置されるパネルユニットに関する。

10

【背景技術】

【0002】

オープンキッチンは、キッチン（台所）とそれに連続するダイニングルームやリビングルームなどの部屋（以下、ダイニングルーム等と称す）とが壁などで仕切られていない空間部屋構造であって、両空間が一体的となつて、一方側から他方側を見通せるような開放的な部屋作りを可能であり、一般住宅などで広く採用されている。

【0003】

オープンキッチンでは、キッチンとダイニングルーム等との間に、流し台（シンク）や加熱調理台（ガスコンロ等）が据え付けられた天板（キッチンカウンタ）を備えたキッチンキャビネットが、キッチンとそれに連続するダイニングルーム等との境界位置に設置され、キッチンキャビネットの高さは人の腰の高さ程度であることから、両側から互いに視認可能であり、調理者が、キッチンキャビネット上で調理作業を行う際は、ダイニングルーム等にいる家族や友人と対面してコミュニケーションを取りながら、ダイニングルーム等に向かって調理することができる。また、調理された料理をキッチンカウンタ越しに受け渡すこともでき、食事の準備等も効率的に行うことができる。

20

【0004】

一方で、オープンキッチンは、例えば、ダイニングルーム等にいる来客からキッチンが見えすぎてしまったり、ダイニングルーム等側に水はねが及ぶ場合もある。そのため、キッチン側の目隠しのために、特許文献 1 及び 2 は、キッチンキャビネットの背面側に固定の間仕切りを形成する仕切り壁ユニットを提案する。また、特許文献 3 は、キッチンキャビネットに隣接する壁に出し入れ可能に格納される仕切り部材をキッチンカウンタ上でその長手方向に引き出して間仕切りを形成する対面キッチン用の可動仕切り構造を提案する。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【文献】実開昭 62 - 113741 号公報

【文献】特開 2006 - 334114 号公報

【文献】特開 2003 - 275045 号公報

40

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、キッチンとリビングルーム等との間に固定の仕切壁を形成すると、オープンキッチンの開放感が薄れ、キッチン側とダイニングルーム等側の対面によるコミュニケーションを可能とするオープンキッチンのメリットが損なわれる。また、仕切壁の高さが相対的に低いと、目隠し機能を十分に果たさない。このように、固定の仕切壁では、仕切壁の設置や取り外しを任意のタイミングで変更できず、高さも変更できない。さらに、キッチンカウンタ上に仕切り部材を立てて間仕切りを形成すると、キッチンカウンタ上のスペースを狭めてしまうとともに、隣接する壁に格納可能な構造を必要として大掛かりな工

50

事となり、後付け設置も困難である。

【 0 0 0 7 】

そこで、本発明の目的は、任意のタイミングでキッチンとダイニングルーム等との間に仕切りを形成することができ、さらに後付け設置も含めて容易に設置することができるオープンキッチン用のパネルユニットを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

上記目的を達成するための本発明のパネルユニットの構成は、キッチン空間と連続する部屋空間の当該キッチン空間との境界位置に設置されるキッチンキャビネットの当該部屋空間に面して立直する第 1 の側面に対向して立設されるパネルユニットであって、キッチンキャビネットの第 1 の側面に面して配置されるパネルと、パネルをキッチンキャビネットの第 1 の側面に沿って上下方向に昇降可能に支持する駆動機構部とを備え、パネルの上端部分に、パネルの長手方向に沿って水平方向に延びるカウンタが設けられることを特徴とする。

10

【 0 0 0 9 】

好ましくは、上記構成において、パネルに、カウンタの下側であってパネルの部屋空間側の面に取り付けられた棚板を有する収納部が形成されるか、または、パネルに、カウンタの下側であってパネルのキッチンキャビネット側の面に取り付けられた棚板を有する収納部が形成される。

【 0 0 1 0 】

また、好ましくは、上記構成において、パネルに、カウンタの下側であってパネルのキッチンキャビネット側の面に取り付けられた棚板を有するキッチンキャビネット側収納部と、カウンタの下側であって部屋空間側の面に取り付けられた棚板を有する部屋空間側収納部が形成される。

20

【 0 0 1 1 】

さらに、上記構成において、駆動機構部は、キッチンキャビネットに隣接する床面に取り付けられる。

【発明の効果】

【 0 0 1 2 】

本発明のパネルユニットによれば、任意のタイミングでキッチンとダイニングルーム等との間に仕切りを形成することができ、キッチン側を目隠しする場面と、キッチン側を視認可能にするオープンキッチンの場面を自由に切り替えることができる。また、本発明のパネルユニットは、住宅の新築の際またはリフォームの際などの時期を問わず、ユーザの所望するときにいつでも取り付け設置できる。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 3 】

【図 1】本発明の実施の形態におけるパネルユニットの外観構成例（パネル 1 2 の上端部がキッチンキャビネットの高さより低い位置にある場合）の斜視図である。

【図 2】本発明の実施の形態におけるパネルユニットの外観構成例（パネル 1 2 の上端部がキッチンキャビネットの面一となる高さにある場合）の斜視図である。

40

【図 3】本発明の実施の形態におけるパネルユニットの外観構成例（パネル 1 2 の上端部がキッチンキャビネットの高さより高い位置にある場合）の斜視図である。

【図 4】本発明の実施の形態におけるパネルユニットの外観構成例（高い位置と低い位置にあるパネル 1 2 を重ねて透視的に表示した場合）の斜視図である。

【図 5】キッチンキャビネット 2 0 に据え付けられたパネルユニット 1 0 の概略構成を示す上面図である。

【図 6】キッチンキャビネット 2 0 に据え付けられたパネルユニット 1 0 の概略構成を示す側面図である。

【図 7】パネル 1 2 の別の形態例（収納部 1 2 c がダイニングルーム D 側にある場合）を示す図である。

50

【図 8】パネル 1 2 の別の形態例（収納部 1 2 c がキッチン K 側にある場合）を示す図である。

【図 9】パネル 1 2 の別の形態例（収納部 1 2 c がダイニングルーム D 側とキッチン K 側の両方にある場合）を示す図である。

【図 10】キッチンキャビネット 20 に取り付けられるパネルユニット 10 の別の取り付け形態例を模式的に示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。しかしながら、かかる実施の形態例が、本発明の技術的範囲を限定するものではない。本発明の実施の形態について、具体的な図に基づいて説明する。

10

【0015】

図 1、図 2、図 3 及び図 4 は、本発明の実施の形態におけるパネルユニットの外観構成例を示す斜視図である。パネルユニット 10 は、キッチンキャビネット 20 に装着され、キッチンキャビネット 20 に対して上下方向に昇降する。パネルユニット 10 は、キッチンキャビネットの側面に面して配置されるパネル 1 2 を備え、図 1 はパネル 1 2 が最も低い位置に降りた位置状態（上端高さ位置 P 1）を示し、図 2 はパネル 1 2 が最も低い位置から所定高さ上昇した位置状態（上端高さ位置 P 2）を示し、図 3 はパネル 1 2 がさらに上昇し最も高い位置に上昇した位置状態（上端高さ位置 P 3）を示す。また、図 4 は、図 1 乃至図 3 の状態を重ねて示した透視図である。

20

【0016】

キッチンキャビネット 20 は、オープンキッチンを形成するためのいわゆる対面式キッチンユニットであり、キッチン K とそれに連続する部屋空間（例えばダイニングルーム）D との境界位置に設置される。キッチンキャビネット 20 は箱型で直方体形状の調理作業台であって、上面の天板 22 とその下方領域の収納部 24（図 4 参照）とを有して構成され、天板 22 上には、流し台（シンク）22 a や加熱調理台（ガスコンロ、IH クッキングヒータ等）22 b が設置される。収納部 24 内には、調理器具等が格納され、または流し台 22 a と接続する配管なども配設される。

【0017】

床の上に設置されるキッチンキャビネット 20 は、長方形の天板 22 から垂直下方向に立設する 4 面の立直側面に囲まれて箱型形状を形成し、すなわち、キッチン K 側に面する立直側面（以下、前側面と称する場合がある）26 a、その前側面 26 a に対向する面であってキッチン K に連続する部屋空間（ダイニングルーム）D に面する立直側面（以下、後側面と称する場合がある）26 b、キッチンキャビネット 20 の一端側で接する壁 W に接する立直側面（以下、左側面と称する場合がある）26 c（壁 W と接する面なので図示されないが、便宜的に壁 W との端部に参照番号を付する）、その左側面 26 c に対向する面であって開放端面である立直側面（以下、右側面と称する場合がある）26 d を備える。キッチンキャビネット 20 がいわゆるアイランド型キッチンユニットである場合は、左側面 26 c も開放端面となり、また、いわゆる L 型キッチンユニットである場合、左側面 26 c は、L 型形状の天板における壁 W に沿って延びる部分に対応して設けられる。さらに、部屋の配置が左右反対向きである場合は、左側面 26 c と右側面 26 d は入れ替わる。

30

40

【0018】

パネル 1 2 の上端部分には、パネル 1 2 の長手方向に沿ってダイニングルーム D 側水平方向に延びるカウンタ 12 b が設けられてもよい。カウンタ 12 b は、料理皿や雑貨物などさまざまな物品の載置台として活用することができる。パネル 1 2 は、木製板、金属板または樹脂板など必要な強度を備えた材料により形成され、その表面は塗装や化粧シートなどでデザインが施されてもよい。

【0019】

パネル 1 2 は、キッチンキャビネット 20 の後側面 26 b の長手方向（横方向）長さ

50

ほぼ同一の横方向長さ、後側面 2 6 b の高さ方向（縦方向）長さとはほぼ同一またはそれより短い縦方向長さを有する薄板部材であり、図 1 乃至図 6 の例では、後側面 2 6 b よりも高さ方向（縦方向）長さが短いパネル 1 2 が例示される。

【 0 0 2 0 】

一例として、キッチンキャビネット 2 0 の天板 2 2 の高さが 850mm 程度の場合、パネル 1 2 の高さ方向（縦方向）長さはおよそ 700mm とするのが好ましい。この場合において、パネル 1 2 の下端が床に接触するまで下降させてパネル 1 2 を最も低い位置に位置決めすると（図 1 の状態）、パネル 1 2 の上端高さ位置、すなわちカウンタ 1 2 b の高さ位置も 700mm 程度となり、カウンタ 1 2 b は、キッチンキャビネット 2 0 に隣接して通常の椅子で食事ができる対面カウンターテーブルとして機能する。また、ダイニングルーム D に置かれたダイニングテーブルとはほぼ同等の高さとなるので、カウンタ 1 2 b とダイニングテーブルとつなげることで、ダイニングテーブルを拡張するように利用することもできる。

10

【 0 0 2 1 】

パネル 1 2 を最も低い位置から上昇させてパネル 1 2 の上端高さ位置を 850mm 程度に位置決めすると（図 2 の状態）、パネル 1 2 のカウンタ 1 2 b は、キッチンキャビネット 2 0 の天板 2 2 と面一の高さ位置となり、天板 2 2 とカウンタ 1 2 b を合わせてフラットな作業領域を拡張することができる。

【 0 0 2 2 】

また、パネル 1 2 の上端高さ位置を 900mm 程度とすると、パネル 1 2 のカウンタ 1 2 b を、キッチンキャビネット 2 0 の天板 2 2 より 50mm ほど高い段差をつけたステップカウンタとすることができる。

20

【 0 0 2 3 】

さらに、パネル 1 2 の上端高さ位置を 1000mm 以上の高さとする（図 3 の状態）、パネル 1 2 の高さが、ダイニングルーム D 側からの目線（着席している場合）よりも高くなり、ダイニングルーム D とキッチン K とを隔てる仕切りとして機能し、キッチン K 側の目隠し（特に、キッチンキャビネット 2 0 の天板 2 2 上での調理作業の目隠し）とすることができる。

【 0 0 2 4 】

なお、カウンタ 1 2 b を、例えばお酒をたしなむ店であるバーに据え付けられているいわゆるバーカウンタのようにして利用する場合は、パネル 1 2 の上端高さ位置を 1100mm 程度とし、バーカウンタ用の椅子を用意することで、バーカウンタとして利用することができる。

30

【 0 0 2 5 】

このように、本発明のパネルユニットによれば、昇降可能なパネルがキッチンキャビネットの側面に面して配置されるので、キッチンとダイニングルーム等との間に仕切りを形成することができ、キッチン側の目隠し（特に、キッチンでの調理作業の手元の目隠し）を任意のタイミングで行うことができる。また、キッチン側を目隠しする場面とキッチン側を視認可能にするオープンキッチンの場面を自由に切り替える 2 w a y 利用が可能となる。

40

【 0 0 2 6 】

パネルユニット 1 0 は、キッチンキャビネット 2 0 のダイニングルーム D に面する後側面 2 6 b 及び開放端面である右側面 2 6 d に面して上下方向に昇降可能に配置される。

【 0 0 2 7 】

図 5 は、キッチンキャビネット 2 0 に装着されたパネルユニット 1 0 の概略構成を示す上面図、図 6 はその側面図であり、図 5 の A - A 線から見た図である。パネルユニット 1 0 は、キッチンキャビネット 2 0 の後側面 2 6 b に面して立設されるパネル 1 2 と、パネル 1 2 をキッチンキャビネット 2 0 の後側面 2 6 b に沿って上下方向に昇降させる駆動機構部 1 4 とを備える。なお、図 1 乃至図 4 では、パネル 1 2 の昇降状態を図示するため、駆動機構部 1 4 の図示省略されている。

50

【 0 0 2 8 】

図 5 及び図 6 に示される例では、パネル 1 2 は、キッチンキャビネット 2 0 のダイニングルーム D に面する面である後側面 2 6 b に面して配置される。パネル 1 2 は、キッチンキャビネット 2 0 の長手方向長さ全域にわたって面する長さを有する。カウンタ 1 2 b は、その下側を示すために透視的に点線表示される。

【 0 0 2 9 】

なお、パネル 1 2 は、上記図 1 乃至図 4 に例示されるように、後側面 2 6 b とそれから直角に連続する右側面 2 6 d にまで延びて、右側面 2 6 d にも面するように配置されてもよい。この場合、パネル 1 2 は、直角に折れ曲がった形状に形成され、右側面 2 6 d に面する部分についても、右側面 2 6 d の長手方向長さ全域にわたって面する長さを有する。右側面 2 6 d にパネル 1 2 b が折れ曲がって延びることで、右側面 2 6 d 側に続く部屋に対して目隠しとなる仕切りを設けることができる。

10

【 0 0 3 0 】

駆動機構部 1 4 は、パネル 1 2 を昇降させる駆動装置であり、キッチンキャビネット 2 0 に固定して取り付けられ、パネル 1 2 をキッチンキャビネット 2 0 の後側面 2 6 b に沿って上下方向に昇降可能に支持する。

【 0 0 3 1 】

駆動機構部 1 4 は、例えばモータ駆動のリニアアクチュエータにより構成され、具体的には、キッチンキャビネット 2 0 の後側面 2 6 b に固定して取り付けられる軸部 1 4 2 と、パネル 1 2 に取り付けられ且つ軸部 1 4 2 と係合する可動部 1 4 4 と、可動部 1 4 4 を駆動するモータ M とを備える。

20

【 0 0 3 2 】

軸部 1 4 2 は、キッチンキャビネット 2 0 の後側面 2 6 b の高さ方向に沿って直線状に延びるラックを有し、可動部 1 4 4 は、ラックと噛み合う回転歯車（ピニオン）を有し、ピニオンがラック上を回転移動することにより、パネル 1 2 が昇降する。モータ M は、減速機（図示せず）を介してピニオンを回転駆動する。

【 0 0 3 3 】

さらに、補助的な支持構成として、軸部 1 4 2 は、後側面 2 6 b の高さ方向に沿って直線状に述べるガイドレール 1 4 6 が設けられ、一方、パネル 1 2 には、そのガイドレール 1 4 6 に嵌合するガイド 1 4 8 が設けられ、ガイド 1 4 8 は、可動部 1 4 4 の移動に伴うパネル 1 2 の昇降をガイドレール 1 4 6 に沿って案内する。

30

【 0 0 3 4 】

可動部 1 4 4 は、ピニオンに代わって、ラックと噛み合うネジ歯車（ウォームギア）を用いてラックに対して移動する構成であってよい。

【 0 0 3 5 】

また、駆動機構部 1 4 は、上述したラックを用いた歯車駆動方式に限らず、例えば、油圧または空気圧シリンダーの伸縮によるシリンダー駆動方式、プーリの回転によりベルトを動かすベルト駆動方式などさまざまな駆動方式を採用することができる。

【 0 0 3 6 】

図 7、図 8 及び図 9 は、パネル 1 2 の別の形態例を示す図である。垂直に立てられて配置されるパネル 1 2 は、その上端部からダイニングルーム D 側水平方向に延びるカウンタ 1 2 b に加えて、そのカウンタ 1 2 b の下部に収納部 1 2 c が設けられてもよい。収納部 1 2 c は、カウンタ 1 2 b と平行に延びる棚板であり、カウンタ 1 2 b の下部の空間を有効に利用することができる。収納部 1 2 c には、扉（図示せず）が設けられてもよい。図 7 の形態例は、収納部 1 2 c がダイニングルーム D 側に形成される例であり、図 8 の形態例は、収納部 1 2 c がキッチン K 側に形成される例であり、図 9 の形態例は、収納部 1 2 c がダイニングルーム D 側とキッチン K 側の両方に形成される例を示す。図 9（a）はダイニングルーム D 側から見た図、図 9（b）はキッチン K 側から見た図である。パネル 1 2 がキッチンキャビネット 2 0 の高さより低い位置に降下した場合は、ダイニングルーム D 側に設けられた収納部 1 2 c を隠すこともできる。なお、図 7 乃至図 9 では、パネル 1

40

50

２の収納部１２を図示するため、駆動機構部１４は図示省略され、さらに、キッチンキャビネット２０は箱型直方体として簡略的に示される。

【００３７】

図１０は、キッチンキャビネット２０に取り付けられるパネルユニット１０の別の取り付け形態例を模式的に示す図である。図１０の例では、キッチンキャビネット２０のダイニングルームＤ側に面する後側面２６ｂに接する造作腰壁３０が設置されている。パネルユニット１０は、その造作腰壁３０のダイニングルームＤ側に面する面に取り付けられ、上述した駆動機構部１４によりパネル１０がキッチンキャビネット２０に対して昇降可能に設けられる。キッチンキャビネット２０の後側面２６ｂに接して造作腰壁３０が設置されるように設計される住宅は比較的多く存在し、本実施の形態におけるパネルユニット１０を、このような造作腰壁３０が設置されている既設住宅のキッチン形態においても、容易に後付け設置することができる。もちろん、上述したように、造作腰壁３０を介さずにパネルユニット１０をキッチンキャビネット２０に対して直接取り付ける形態においても、パネルユニット１０の後付け設置は容易に行うことができる。なお、図１０では、図６と比較して、パネルユニット１０のパネル１２が上昇した状態が示されている。

10

【００３８】

パネルユニット１０は、キッチンキャビネット２０のダイニングルームＤ側に面する後側面２６ｂまたはそれに隣接する造作腰壁３０に限らず、パネル１０がキッチンキャビネット２０の後側面２６に対向して配置されるように、キッチンキャビネット２０に隣接する床面に取り付けられてもよい。この場合、パネルユニット１０の駆動機構部１４の軸部１４２が床面に固定される。

20

【００３９】

本発明は、上記実施の形態に限定されるものではなく、本発明の分野における通常の知識を有する者であれば想到し得る、各種変形、修正を含む、本発明の要旨を逸脱しない範囲の設計変更があっても、本発明に含まれることは勿論である。

【符号の説明】

【００４０】

１０：パネルユニット、１２：パネル、１２ｂ：カウンタ、１２ｃ：収納部、１４：駆動機構部、２０：キッチンキャビネット、２２：天板、２２ａ：流し台、２２ｂ：加熱調理台、２４：収納部、２６ａ：立直側面（前側面）、２６ｂ：立直側面（後側面）、２６ｃ：立直側面（左側面）、２６ｄ：立直側面（右側面）、３０：造作腰壁、１４２：軸部、１４４：可動部、１４６：ガイドレール、１４８：ガイド

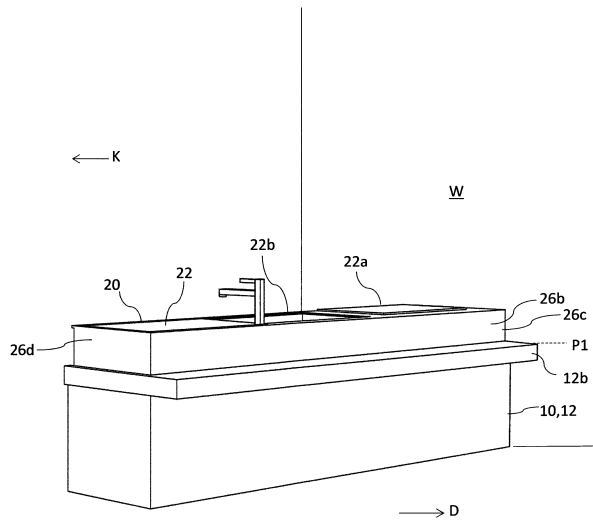
30

40

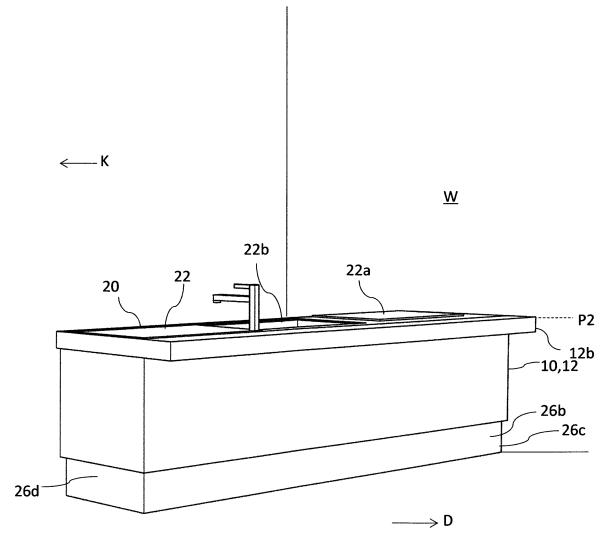
50

【図面】

【図 1】



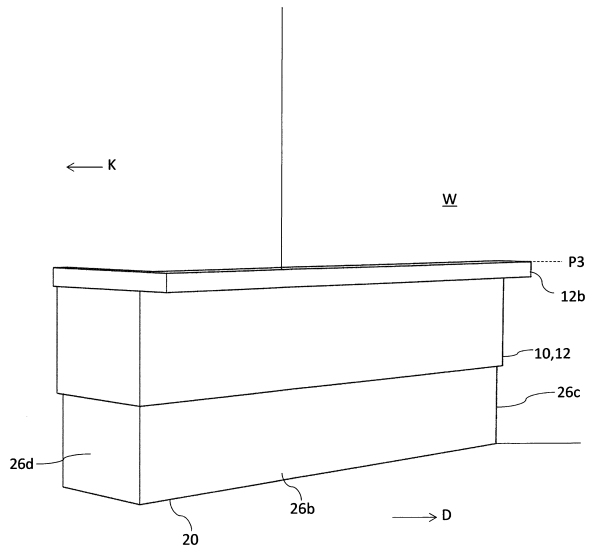
【図 2】



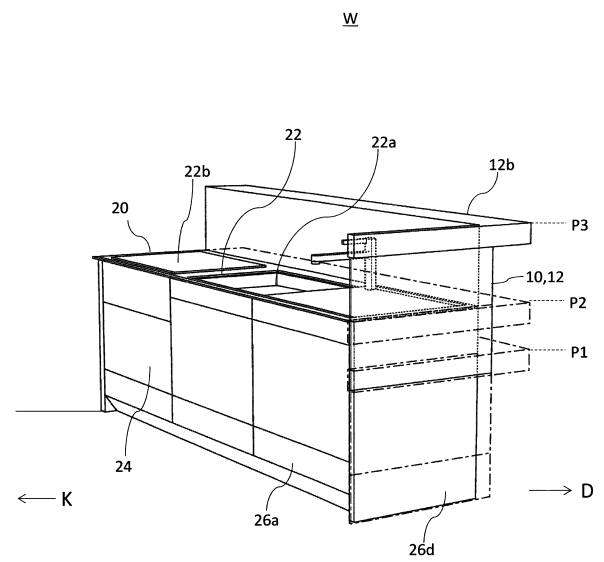
10

20

【図 3】



【図 4】

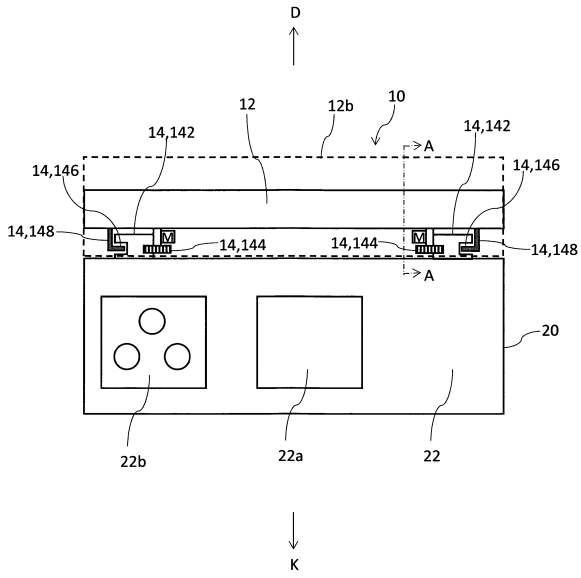


30

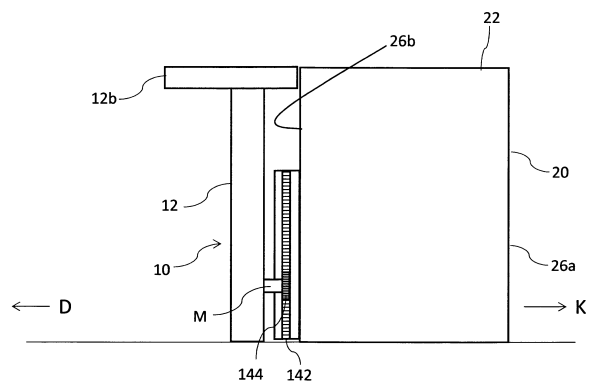
40

50

【図 5】

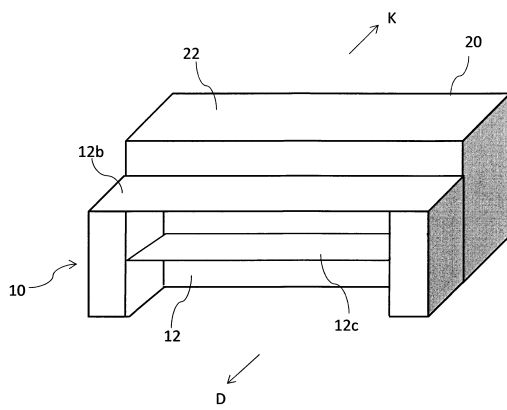


【図 6】

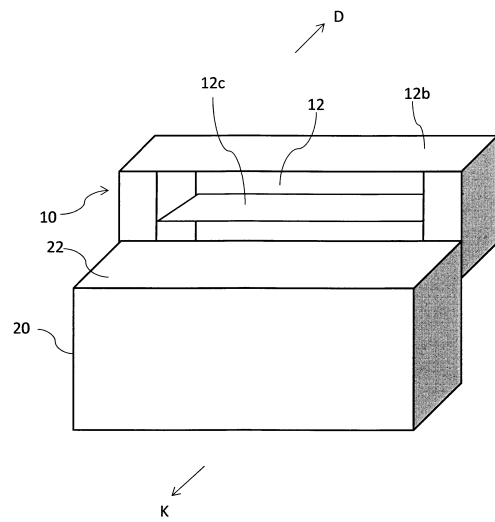


10

【図 7】



【図 8】



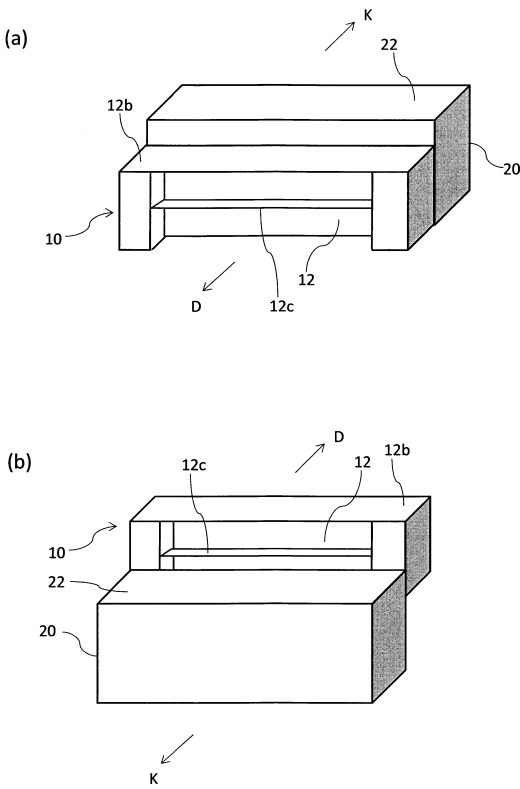
20

30

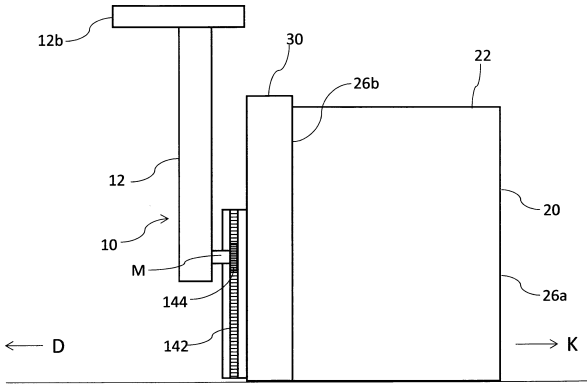
40

50

【図 9】



【図 10】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平04 - 045460 (JP, U)
特開平07 - 023826 (JP, A)
特開2010 - 172438 (JP, A)
特開2006 - 204714 (JP, A)
特開2001 - 149150 (JP, A)
実開平03 - 045737 (JP, U)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
A47B 77/00、83/04、51/00
37/00、96/18、96/20